

# かずら橋の夢

切られる運命の橋が夢見たのは  
永遠に切れない人の絆



平家の落人が追つ手を逃れるために、切り落とされるようにと、この橋を架けたとも伝わる「かずら橋」。昔のかずら橋はゆらゆらと実に頼りない浮き橋でした。

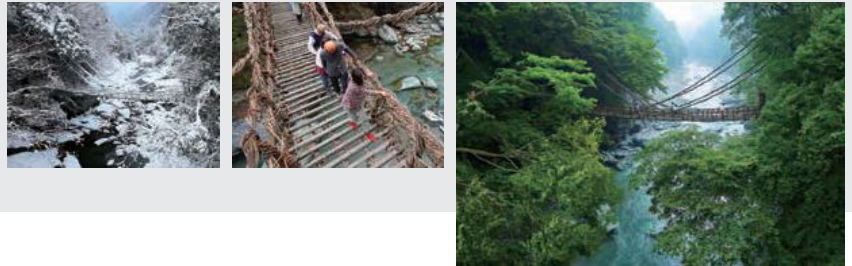
江戸から明治にかけて、祖谷には十三のかずら橋があったと言いますが、一度は全てのかずら橋が姿を消してしまいました。その後、昭和三年に有志の手によって善徳のかずら橋がよみがえります。

この橋は、暮らしの橋と言うより観光資源として再び架けられたものでした。ですから、見かけとは違つて、より確かな橋、より安全な橋梁を目指して進化を続けます。そのため、三年ごとに切り落とされ、再び強固に掛け替えられています。

とはいえ、このかずら橋は水面から十四メートルのところにあり、長さ

は四十五メートルもあります。「さなぎ」と呼ばれる橋の底に敷かれた木片の間からは、水しぶきを上げて流れる渓谷を眺めることができ、また一足ごとにゆらゆら揺れるので、人々はドキドキするようなスリルを味わうことができます。ちなみに、心理学的にも共にドキドキするような時間を持つと、その二人は恋に落ちやすいとか。

ほかにも頼り合つて渡る家族、励まし合つて渡る仲間と、切り落とすための橋は切つても切れない人の絆を深めてきました。



奥祖谷二重かずら橋

「祖谷のかずら橋」から車で約1時間、奥祖谷にも二つのかずら橋が架けられています。素朴な面影を残す「奥祖谷二重かずら橋」は男橋と女橋があり、すぐそばには人力で渓谷を渡るロープウェイ「野猿」もあります。



以前は、架け替えの度に古い橋が切り落とされていましたが、現在は解体工事が行われず。



架け替え作業中の橋。見学することしかできませんが、最もスリリングな状態です。



現在の橋は、もちろんかずらだけではなく、頑丈なワイヤーが補強の役目を担っています。

## かずら橋の架け替え作業